

育成を目指す資質・能力を踏まえた 「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領（2） — 知的障害特別支援学校中学部・高等部を対象とした「単元構想シート」 —

田淵健*, 原田孝祐・佐々木尚子・大森響生**, 中村くみ子・藤谷憲司・高橋幸・
本間清香・細川絵里加・佐藤佑哉・小原一志***, 東信之・佐々木全****
*岩手県立気仙光陵支援学校, **岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻,
岩手大学教育学部附属特別支援学校, *岩手大学大学院教育学研究科
(令和3年3月4日受理)

1. はじめに

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）及び特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年4月告示）には、知的障害者を対象として「各教科等の内容の一部又は全部を合わせて指導を行う場合」に、各教科等の内容を基にした指導内容の設定、授業時数を定めることが規定され、これを踏まえた授業づくりの実践的な要領が求められている。

これに応えるべく、授業と学習指導要領との理論的整合を担保するツールとして「単元構想シート」が開発された¹⁾。これは、小学部の生活単元学習の授業づくりの実践による試行錯誤を経て、用いるデータや様式をデジタル化し、Microsoft Excel®による操作を可能にしたものであった。そもそも「単元構想シート」は、授業づくりのプロセスを担うものであることから、「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」のフローに基づいて使用されることが肝要である。これを表1に示した。ここでは、6つの「要点」、9つの「手順」及びそれに対応する「視点・留意点等」、根拠となる資料及び使用するツールを一覧した。このうち、「単元構想シート」の作成は、「手順」における「③単元全体計画の作成」「④各教科等の目標・内容（資質・能力）との関連をチェック（構想シート）」の実施をガイドするツールである。

これを授業づくりで使用した教員10名を対象として、アンケート調査とインタビュー調査したところ、「単元構想シート」によって、各教科等の目標・

内容との関連に関する教員の思考が促進され、「育成を目指す資質・能力」を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくりが可能となったとの実感を得たという²⁾。

しかし、ここで用いられた、「単元構想シート」は小学部における各教科等の内容を収めており、これに基づく実践及び評価は小学部に限定するものであった。「単元構想シート」の有用性を検証し、この使用の普及を目指すにあたっては、中学部と高等部における各教科の目標・内容を収めた「単元構想シート」（それぞれ「小学部版・単元構想シート」「中学部版・単元構想シート」「高等部版・単元構想シート」と記す）の作成と実践、さらには検証が必要である。

そこで、本稿では、その端緒として、新たに開発した中学部や高等部に対応する「単元構想シート」について、その開発過程と内容を報告する。

2. 「中学部版・単元構想シート」と「高等部版単元構想シート」の開発手順と内容及び構成

「中学部版・単元構想シート」と「高等部版・単元構想シート」を開発するために、中学部と高等部における各教科の目標・内容について、それぞれの学習指導要領の内容をテキストデータとして作成し、これを「小学部版・単元構想シート」に準じて、Microsoft Excel®による操作ができるよう設定した。この内容及び構成（高等部の例）を表2に示した。ここでは、Microsoft Excel®のブック内に1～26の番号を割り振ったシートを作成し、それぞれ

表1 各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領

要点	手順（授業者の作業）	視点・留意点等	資料・ツール
1 知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえる	① 理解及び確認	● 「抽象的な内容の指導よりも、実際の生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的」等を踏まえる。	『特別支援学校学習指導要領解説総則等編』
2 知的障害者である児童生徒の教育的対応の基本を踏まえる	② 理解及び確認	● 「生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導する」等を踏まえる。	『特別支援学校学習指導要領解説総則等編』
3 子ども（知的障害者である児童生徒）の生活に即した具体的な活動を構想する	③ 単元の全体計画の作成 （テーマ※単元名、目標※資質・能力、日程、活動内容、分担等を単元構想シートに記入）	● 子どもの実態を踏まえる。（前単元の様子等から） ● 学校教育目標、学習教育目標において示されている育成を目指す資質・能力を踏まえる。 ● 年度はじめに作成した個別の指導計画の目標を踏まえる。 ● 各教科等を合わせた指導に関する各留意事項を踏まえる。	『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編』 『学校経営計画』 『個別の指導計画』 『単元構想シート』
4 各教科等を合わせた指導に関する各留意事項を踏まえる。具体的な活動中に含まれる各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にし、各教科等を合わせた指導を計画・実施する	④ 各教科等の目標・内容（資質・能力）との関連をチャエック（構想シート）	● 単元全体を通して各教科等の資質・能力がどのような関連するか全体像をイメージする	『特別支援学校学習指導要領解説』 『単元構想シート』
5 各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行う	⑤ 単元における個別の指導計画の作成（個別の目標、支援の計画）	● 子どもの実態を踏まえる。（前単元の様子等から） ● 学校教育目標、学習教育目標において示されている育成を目指す資質・能力を踏まえる。 ● 年度はじめに作成した個別の指導計画の目標を踏まえる。 ● 授業者間による共通理解（目標と手立て）を図る	『個別の指導計画』 『単元における個別の指導計画』
6 カリキュラム・マネジメントの観点に基づいたPDCAサイクルで授業改善を行う	⑥ 各教科等の目標・内容との関連の確認（単元における個別の指導計画にチャエック）	● 個別の教育的ニーズに応じた、実際の生活上必要となる各教科の目標と内容の配列であるかを確認する。 ● 個別の目標に各教科等の資質・能力の育成が踏まえられているかを確認する。	『単元における個別の指導計画』
7 各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行う	⑦ 単元構想シート、単元における個別の指導計画に基づき授業実施	● 授業者間による日々の授業改善（手立ての工夫等）を行う。	『単元における個別の指導計画』
8 各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行う	⑧ 単元における個別の指導計画における評価の記述	● 授業者間による共通理解の場を設ける。 ● 関連する各教科の目標・内容を踏まえた記述となっているかを確認する。 ● 必要に応じて各教科等に分けて評価を行う。	『単元における個別の指導計画』
9 カリキュラム・マネジメントの観点に基づいたPDCAサイクルで授業改善を行う	⑨ 授業についての評価、改善の話し合い（単元終了後、学期末、年度末等）	● 単元の内容、配列等、学習指導要領解説における留意点を視点として授業評価を行う。 ● 他の教科等との関連から教育課程の在り方を検討する。	『単元構想シート』 『単元における個別の指導計画』 『年間指導計画』 『教育課程』 『学校教育目標』

に内容を配置した。また、それぞれのシートに関わる出典を付記した。

なお、「中学部版・単元構想シート」では、各教科の目標・内容については、中学部における各教科の目標・内容に加え、小学部における各教科の目標・内容を加えた。高等部版・単元構想シートでは、高等部における各教科の目標・内容に加え、小学部及び中学部における各教科の目標・内容を加えた。これらは、各学部で対象とする生徒の実態を鑑み、それぞれの下学部内容を用いる可能性があったことによるものであり、学習指導要領総則における以下の記述を根拠とした。

第8節 重複障害者等に関する教育課程の取扱い

1 児童又は生徒の障害の状態により特に必要がある場合には、次に示すところによるものとする。その際、各教科、道徳科、外国語活動及び特別活動の当該各学年より後の各学年（知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、各教科の当該各段階より後の各段階）又は当該各学部より後の各学部の目標の系統性や内容の関連に留意しなければならない。

- (1) 各教科及び外国語活動の目標及び内容に関する事項の一部を取り扱わないことができること。
- (2) 各教科の各学年の目標及び内容の一部又は全部を、当該各学年より前の各学年の目標及び内容の一部又は全部によって、替えることができること。また、道徳科の各学年の内容の一部又は全部を、当該各学年より前の学年の内容の一部又は全部によって、替えることができること。

3. 「中学部版・単元構想シート」と「高等部版・単元構想シート」の使用と改善意見

岩手大学教育学部附属特別支援学校(以下、本校)において、中学部と高等部それぞれの作業学習における単元と対象生徒を事例として、「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」のフローに基づいて作業を実施した。これらの手順のうち、「③単元の全体計画の作成」「④各教科等の目標・内容(資質・能力)との関連をチェック(構想シート)」「⑤授業についての評価、改善の話し合い(単元終

了後、学期末、年度末等)」が単元構想シートの使用場面である。この作業の成果物である「単元構想シート(シート番号11)」と、「単元における個別の指導計画(シート番号10)」(いずれも、高等部事例における入力操作画面)をそれぞれ図1と図2に示した。

その上で、使用者から改善意見の聴取を行った。これらについて、対応済みの内容及び今後対応予定の内容、検討が必要な内容を問わず以下に列記した。今後、これらに基づく修正と改善に努めたい。

- ① **視認性向上に資する内容** 「単元構想シートの内容及び構成における、シートの配列順についての修正が必要である」との意見があった。これは、各教科等の配列順が、学習指導要領における配列順と整合させることを意味した。今後改善予定である。
- ② **既存あるいは志向する授業づくりの要領との統合あるいは整合に資する内容** 高等部では、「単元における個別の指導計画(シート番号10)」においては、関連する各教科等に関わる目標や内容についての達成状況を評価できるよう項目を追加した。
- ③ **既存あるいは志向する授業づくりの要領との統合あるいは整合に資する内容** 「単元構想シート(シート番号11)」の「評価の視点」の欄における要領を定めたい。すなわち、これは本校の観点別評価の要領を反映する意図である。そもそも本校の観点別評価は、「主体的な姿」の記述とそれに基づく「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」をもって分析的に評価する³⁾。
- ④ **既存あるいは志向する授業づくりの要領との統合あるいは整合に資する内容** 中学部では、「単元における個別の指導計画(シート番号10)」と既存の「作業ノート」における記述内容が重複するため、作業ノートの使用に一元化する。「作業ノート」とは、作業学習における生徒の学習状況を保護者と共有するツールとして、開発され従来使用されているものである。

- ⑤ 単元構想シートの使用自体に関する発展ある
いは修正内容 事前に作成した単元構想シートの内容を単元途中で修正する場合には見え消しで加筆訂正することとした。
- ⑥ 使用者の研修ニーズに資する内容 「単元構想シート(シート番号11)」の記入時には、各教科等の目標や内容についての予備知識の程度が作業時間に影響する。また、個人作業であれば判断の偏りが懸念される。これらについては、繰り返しの使用による熟練や複数教員

の協働による対応が期待されよう。

4. 結語

本校では、校内研究として「単元構想シート」を含む「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」を用いた授業づくりをすすめている。ここでは、校内研究会において、授業づくりに関する新たな議題が示されている。以下に記したこれらの要点は、本校における授業づくりを洗練に誘うものであろう。

表2 単元構想シート内容及び構成(例：高等部版・単元構想シート)

シート番号	内容	出典
1	各教科等を合わせた指導における授業づくり要領	田淵・佐々木・東・阿部他(2020)
2	知的障害についての説明	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
3	知的障害者の学習上の特性についての説明	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
4	教育的対応の基本についての説明	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
5	各教科等を合わせて指導を行う場合の留意点	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
6	日常生活の指導における実施上の留意点	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
7	遊びの指導における実施上の留意点	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
8	生活単元学習における実施上の留意点	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
9	作業学習における実施上の留意点	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
10	単元における個別の指導計画(様式)	田淵・佐々木・東・阿部他(2020)
11	単元構想シート(様式)	田淵・佐々木・東・阿部他(2020)
12	教科の目標と内容：生活(小)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
13	教科の目標と内容：道徳(小・中)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
14	教科の目標と内容：国語(小・中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
15	教科の目標と内容：社会(中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
16	教科の目標と内容：算数/数学(小・中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
17	教科の目標と内容：理科(中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
18	教科の目標と内容：音楽(小・中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
19	教科の目標と内容：図画工作/美術(小・中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
20	教科の目標と内容：体育/保健体育(小・中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
21	教科の目標と内容：職業・家庭(職業分野)/職業(中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
22	教科の目標と内容：職業・家庭(家庭分野)/職業(中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
23	教科の目標と内容：外国語活動/外国語(小・中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
24	教科の目標と内容：情報(高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
25	各教科等の目標と内容：特別活動(小・中・高)	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部) (平成31年2月告示)
26	各教科等の目標と内容(6区分27項目)：自立活動	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) (平成30年3月) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) (平成31年2月告示)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG	AH	AI	AJ	AK	AL	AN	AO
1	児童・生徒名																																							
2	【単元名】ピザ皿を作って販売しよう～あいわ祭販売会～																																							
3	作業学習																																							
4	準備や後片付け、自分の工程に最後まで取り組む。 ・隣の工程に依頼の声掛けをしたり報告をしたりするなど、周りの人と一緒に作業をする。																																							
5	【知能・技能】 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。																																							
6	【態度・道徳】 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。																																							
7	小単元名 主な活動	目標(願う姿)	各教科等の内容との関連	支援の手立て	評価(実現された姿)	各教科等の 達成状況の評価																																		
9	陶芸製作	・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。	国語 130 社会 110 理科 110 音楽 43 美術 78 保健 45 家庭 78 外国 49 情報 22 特活 24 自治 108 道徳 49 総合 150 社会 130 理科 110 音楽 43 美術 78 保健 45 家庭 78 外国 49 情報 22 特活 24 自治 108 道徳 49 総合 150	・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。	・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。	国語 社会 理科 音楽 美術 保健 職業 家庭 外国 情報 特活 自治 道徳 国語 社会 理科 音楽 美術 保健 職業 家庭 外国 情報 特活 自治 道徳																																		
10	陶芸製作	・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。	国語 130 社会 110 理科 110 音楽 43 美術 78 保健 45 家庭 78 外国 49 情報 22 特活 24 自治 108 道徳 49 総合 150 国語 118 社会 130 理科 110 音楽 43 美術 78 保健 45 家庭 78 外国 49 情報 22 特活 24 自治 108 道徳 49 総合 150	・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。	・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。 ・自分の役割や作業の進め方を説明する。	国語 社会 理科 音楽 美術 保健 職業 家庭 外国 情報 特活 自治 道徳 国語 社会 理科 音楽 美術 保健 職業 家庭 外国 情報 特活 自治 道徳																																		

図2 「単元における個別の指導計画(シート番号10)」(高等部事例における入力操作画面)

注釈:「単元における個別の指導計画(シート番号10)」シートは、小単元ごとの児童生徒一人一人に対する「目標(願う姿)」と、その実現に資する「支援の手立て」を個別具体的に構想するものである。ここでは、「単元構想シート(シート番号11)」で記した「単元の目標」と「評価の観点」とに基づきつつ、児童生徒一人一人の「目標(願う姿)」、「支援の手立て」を記入する。このために、「各教科等の内容との関連」の欄には、教科の目標と内容を表す番号(「単元構想シート(シート番号11)」で入力済み)を転記する。これらは、目標や支援の手立てを吟味する中で加除修正される場合もあるだろう。また、単元終了後には、「評価(実現された姿)」について明らかにするよう具体的な叙述であることと望ましい。なお、「各教科等の達成状況の評価」では、関連が想定された各教科等の目標や内容について、学習場面で取り扱い、それが生徒の学びになっているのかという達成状況を評価する。各教科等のセルをクリックすると評価項目(A:達成/B:概ね達成/C:改善を要する/ー:未実施)が表示され、クリックするとセルに反映される。

① 各教科等を合わせた指導の本質を問う内容

「単元構想シート(シート番号 11)」における作業において、各教科等の目標及び内容との関連を検討する際に、多くの関連項目を抽出することができる場合がある。逆に、関連項目が少ないと不安になり、各教科等の目標及び内容を盛り込もうと考えることがある。

これらについての対応は、同一である。すなわち、各教科等を合わせた指導における活動内容に必要かつ必然的に含まれる内容についてのみ関連づけるということである。偶発的に関連づいた内容を取り扱うのではなく、教育的意図をもって何を関連づけ、いかに取り扱うのかを考えるべきであろう。

なお、各教科等の目標及び内容の取り扱いは、各教科等を合わせた指導に限って取り扱われるものではなく、教育課程全体を通じて取り扱われるものであることは念頭に置きたい。これは、近年言われるカリキュラム・マネジメントの視点に通ずるだろう。

② ツールとしての「単元構想シート」を含む「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」の使用法を問う内容

「単元構想シート」を含む「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」を用いた授業づくりには、その作業において労力がかかることは否めない。このことについて、「小学部や中学部のように単元期間(約2週間)が短く、年間を通して単元数が多いと、単元構想シートの作成に追われてしまうのではないか」との懸念が語られた。

これらについての対応は、次の2つである。すなわち、第一は、使用場面の選択を考慮することである。そもそも「単元構想シート」を含む「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」における労力は、予め想定されていた。すなわち、日常の授業づくりでの使用、いわば「普段使い」のみならず、各教科等を合わせた指導における授業づくりの研修ツールとして、機会を定めて使用することも提案され

ている⁴⁾。本校における使用がモデルケースとなり、使用場面について何らかの方向性が示されることになろう。第二は、単元期間や単元数を再検討することである。これらは、単元目標の実現に資する最適量が選定されるべきである。それ故、「単元構想シート」を含む「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」を普段使いできることを目指して選定することが本末転倒であることは言うまでもない。

謝 辞

本実践研究に際して、ご理解ご協力いただいた関係の皆様へ記して感謝申し上げます。なお、「いわて子ども主体の知的障害教育を学ぶ会」の協力を得ましたことを付記します。

文 献

- 1) 田淵健・佐々木全・東信之・阿部大樹・田口ひろみ・中村くみ子・岩崎正紀・藤谷憲司・上濱龍也・最上一郎・名古屋恒彦(2020) 育成を目指す資質・能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領—特別支援学校の小学部におけるアクション・リサーチによる開発の試み—。岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 7, 135-140.
- 2) 田淵健・佐々木全・東信之(2021)「各教科等を合わせた指導」における育成を目指す資質・能力を踏まえた授業づくり。岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 5, 237-244.
- 3) 中村くみ子・昆亮仁・山口美栄子・高橋幸・伊藤慎悟・阿部大樹・上濱龍也(2020) 児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり—観点別評価の取り組みを通して—。岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 7, 1-6.
- 4) 前掲論文1)